

## 余っている食料を 困っている人を助けるために 提供しませんか？ —フードドライブ—

「フードドライブ」とは、家庭に余っている食料を集め、支援を必要としている地域の福祉施設などに寄付する活動のことです。今、町には支援を必要としている人がいます。食品ロスを減らす第一歩にしてみませんか？

### 菊陽町社会福祉協議会

町社会福祉協議会では、家庭で余っている食品を持ち寄り、生活困窮世帯や施設・団体に配布するフードバンクを実施しています。1品からでも食品の寄付を受け付けます。

#### ◆寄付できる食品

- 常温で保存が可能
- 賞味期限が1カ月以上
- 未開封包装で破損がないもの
- 商品説明が日本語表記のもの



例) 缶詰、お米、レトルト食品、インスタント麺、うどん、パスタなど  
長期間保存できるもの

☎ 菊陽町社会福祉協議会  
生活サポートセンター  
☎(232)4832

### キッズレストランいーと

ほっとステーションで毎月土曜日に開催しているキッズレストランいーとでは、ご家庭で余っている食品を募集しています。興味のある人は下記にお問い合わせください。



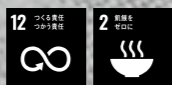
☎ NPO法人 チャイルドサポートきくち  
子ども発達支援センターえるぴあ  
担当 北村光代  
☎(232)2833

## 捨てるなんてもったいない 食品ロス

現代社会では、スーパーやコンビニで手軽に食べ物が手に入ります。まだ食べられる食品や買いすぎた食品などを捨てる「食品ロス」が問題となっています。

自分たちの体を作るおいしい食べもの。

ごみにしてしまう前に一人一人ができることを考えてみませんか。



☎ 環境生活課 ごみ減量推進係 ☎(232)2114

「おなかいっぱい」「期限が切れた」：捨ててしまった経験、誰もが あると思います。目の前に残された食品を捨ててしまったら…。環境省と農林水産省が発表した国内の年間食品ロスは522万ト(令和2年度推計値)。食品ロスは、事業者が排出する賞味期限切れ食品や飲食店での食べ残しなどを思い浮かべますが、実は、家庭からのごみが全体の47%を占めています。「国民1人当たりの食品ロス量」は1日約113gとなり、菊陽町の食品ロス量は年間約1765トと推計されます。燃やすごみの約24%と、意外と大きな割合を占めているのです。

家庭から出る食品ロスを分類すると、料理の「食べ残し」、手を付けずに捨てる「直接廃棄」、野菜の皮を分厚くむくなどの「過剰除去」の3つ。食品ロスを減らすためには、食品を調理するとき、買うとき、飲食店で食べる時などそれぞれの場面で意識することが大切です。

例えば、

- 食べる分だけ調理する
- 可食部分を最大限活用する
- 賞味期限の早いものから買う
- 包装に傷や汚れがあっても中身に問題がなければそれを買う
- 飲食店では注文しすぎない

このような、皆さんのちょっとした行動で食品ロスを減らせます。食品ロスを減らせば、円安で割高となった食費や、ごみ処理にかかる費用などを抑えることができます。

一人一人の小さな一歩が、食料資源の有効活用や廃棄物の抑制につながり、ひいては、地球温暖化対策など地球環境を守ることにつながります。緑豊かな地球を残していくために今自分ができることにチャレンジしてみませんか？

(おわり)

### できることから取り組もう

家庭から出る食品ロスを分類すると、料理の「食べ残し」、手を付けずに捨てる「直接廃棄」、野菜の皮を分厚くむくなどの「過剰除去」の3つ。食品ロスを減らすためには、食品を調理するとき、買うとき、飲食店で食べる時などそれぞれの場面で意識することが大切です。

例えば、

### 食品ロスの半分は家庭から

「おなかいっぱい」「期限が切れた」：捨ててしまった経験、誰もが あると思います。目の前に残された食品を捨ててしまったら…。環境省と農林水産省が発表した国内の年間食品ロスは522万ト(令和2年度推計値)。食品ロスは、事業者が排出する賞味期限切れ食品や飲食店での食べ残しなどを思い浮かべますが、実は、家庭からのごみが全体の47%を占めています。「国民1人当たりの食品ロス量」は1日約113gとなり、菊陽町の食品ロス量は年間約1765トと推計されます。燃やすごみの約24%と、意外と大きな割合を占めているのです。